

# 2022年度第3四半期決算説明資料

2023年2月7日

三菱重工業株式会社

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.



皆さん、こんにちは。

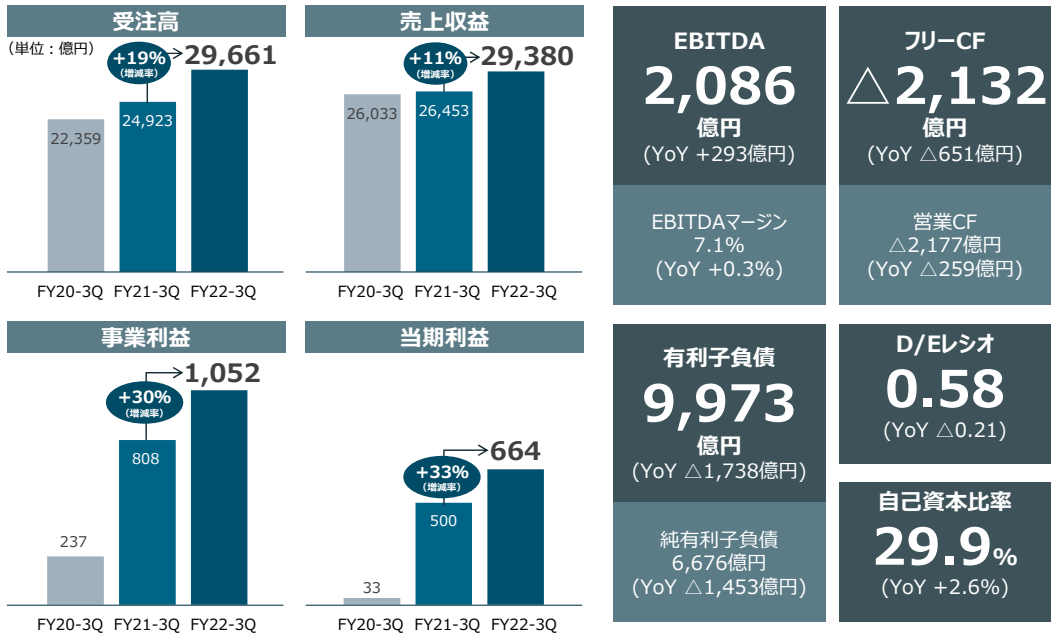
それでは、第3四半期の決算概要について説明します。

<b>I. 決算のポイント</b>	<b>3-5</b>
<b>II. 2022年度第3四半期決算実績</b>	<b>6-14</b>
• 連結経営成績サマリー	
• 連結財政状態、キャッシュ・フロー	
• 事業利益増減分析	
• セグメント情報	
<b>III. 2022年度業績見通し</b>	<b>15-17</b>
<b>IV. 補足資料</b>	<b>18-21</b>
<b>SpaceJet について</b>	<b>22-23</b>

資料の構成は、目次に記載のとおりです。

# I. 決算のポイント

## 2022年度第3四半期決算実績

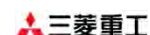


© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

4

初めに、決算実績の全体概要について説明します。このページでは主要な財務指標の実績を記載しています。

## 2022年度第3四半期決算実績ハイライト



- **受注高：29,661億円**（前年同期比：+4,738億円）  
エナジー、物流・冷熱・ドライブシステム、航空・防衛・宇宙の3セグメントが前年同期比増加  
GTCCは、米州、アジア、中東を中心に受注を伸ばし、前年同期比57%増の5,368億円と受注増を牽引
- **売上収益：29,380億円**（前年同期比：+2,926億円）  
エナジー、物流・冷熱・ドライブシステム、航空・防衛・宇宙の3セグメントが前年同期比増収
- **事業利益：1,052億円**（前年同期比：+244億円）  
世界的なインフレ高進にともなう減益影響があるものの、売上増、売価改善、固定費削減、為替影響等が寄与し、事業利益は前年同期比30%増益の1,052億円となった。
- **当期利益：664億円**（前年同期比：+164億円）  
事業利益の増加により、当期利益は前年同期比33%増益の664億円となった。

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

5

また、このページを使用して決算実績の要旨を説明します。

受注高、売上収益は前年同期から増加しました。

特に受注高の伸びは大きく、第2四半期に引き続き順調に推移しています。GTCC（※）が前年度同期比57%増の5368億円となるなど、プラント・インフラセグメントを除く全セグメントで増加しました。

売上収益はプラント・インフラセグメントで微減となったものの、他のセグメントでは増加しました。

受注高・売上収益ともに、前年同期からの為替レート変動の影響で、それぞれ2,400億円弱の増加が含まれていますが、これを除いたところでも増加していると評価しています。

利益面では、従前から継続している材料費、輸送費の高騰に加え、電気料金・燃料費等の上昇、一部事業における一時費用の発生といった悪化要因はあったものの、売上増、価格適正化、固定費削減、為替円安効果などにより、事業利益、当期利益とも増益となりました。

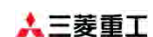
また、有利子負債の水準も前年同期から大きく改善しており、D/Eレシオ、自己資本比率といった面でも高い財務健全性を保っています。

※GTCC:ガスタービンコンバインドサイクル

## Ⅱ. 2022年度第3四半期決算実績

このページ以降では、決算実績をもう少し詳細に記載しています。

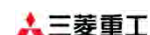
## 連結経営成績サマリー



(単位：億円)	FY2021-3Q (利益率)	FY2022-3Q (利益率)	増減 (利益率)	(増減率)
受注高	24,923	29,661	+4,738	(+19.0%)
売上収益	26,453	29,380	+2,926	(+11.1%)
事業利益	808 (3.1%)	1,052 (3.6%)	+244 (+0.5%)	(+30.3%)
親会社の所有者に 帰属する当期利益	500 (1.9%)	664 (2.3%)	+164 (+0.4%)	(+32.8%)
EBITDA	1,792 (6.8%)	2,086 (7.1%)	+293 (+0.3%)	(+16.4%)
フリー・キャッシュ・フロー	△1,481	△2,132	△651	

このページの数表は繰り返しとなりますので、説明は省略します。

## 連結財政状態、キャッシュ・フロー



連結財政状態	(単位：億円)	FY21末	FY22-3Q末	増減
売上債権（営業債権、契約資産）		13,994	14,814	+820
棚卸資産		7,986	9,512	+1,526
その他流動資産		6,050	6,978	+927
（現金及び現金同等物）		(3,142)	(3,296)	(+154)
固定資産		9,892	9,951	+58
投資等		13,239	13,519	+280
<b>資産合計</b>		<b>51,163</b>	<b>54,776</b>	<b>+3,613</b>
営業債務		8,632	7,706	△926
契約負債		8,865	9,124	+259
その他		9,690	10,662	+971
有利子負債		7,349	9,973	+2,624
資本		16,625	17,310	+684
（うち親会社の所有者に帰属する持分）		(15,766)	(16,371)	(+605)
<b>負債・資本合計</b>		<b>51,163</b>	<b>54,776</b>	<b>+3,613</b>
<b>キャッシュ・フロー</b>	(単位：億円)	<b>FY21-3Q</b>	<b>FY22-3Q</b>	<b>増減</b>
営業キャッシュ・フロー		△1,918	△2,177	△259
投資キャッシュ・フロー		436	45	△391
フリー・キャッシュ・フロー		△1,481	△2,132	△651

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

8

このページではバランスシートおよびキャッシュ・フローについて記載しています。

総資産は、21年度末から3,613億円増加の5兆4,776億円となりました。

増加の内訳としては、前年度末対比での円安に伴う外貨建て資産の換算影響が約850億円、手元現預金の増加が約150億円含まれています。

この表では、棚卸資産や売上債権の増加が大きく見えますが、ここにも為替換算レートの影響が含まれており、その影響を除くと通常の年度内変動の範囲内で推移しています。

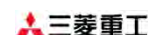
フリー・キャッシュ・フローは前年同期対比で651億円減の2,132億円のキャッシュアウトとなりました。

投資キャッシュ・フローの減少は、不動産や有価証券の売却額が前年同期対比で減少していることによるものです。

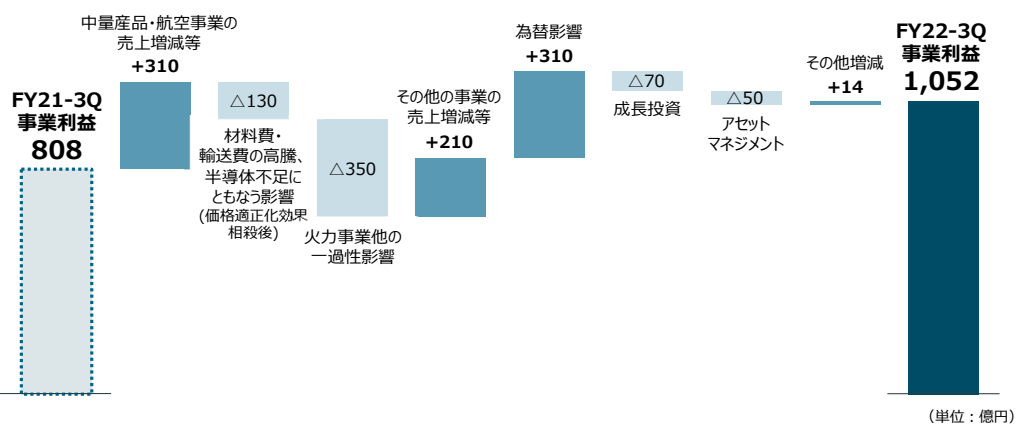
営業キャッシュ・フローは、法人税の支払額が増加したことにより減少していますが、この影響を除けば、前年同期対比で改善しています。



## 事業利益増減分析



- 売上の増加や、為替円安影響が利益を押し上げ
- 価格適正化の取り組み効果により材料費・輸送費の高騰の影響を抑制
- 火力事業において前年同期の好採算工事進捗の反動により前年同期比で利益が減少  
加えて、欧州拠点の構造改革や海外工事案件などで一時費用を引当て
- エネルギー価格高騰により固定費増の影響があったものの、業務改善等により影響を吸収



© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

9

このページでは、前年同期対比での事業利益の増減要因について説明しています。

一番左端の棒グラフ、21年度第3四半期の事業利益は808億円でした。

中量産品や航空エンジン等の増収効果が310億円あったものの、その一方で、材料費・輸送費高騰やサプライチェーン混乱による生産調整の影響で、130億円の減益が生じました。このマイナス130億円には、販売価格の改定による改善効果280億円を含んでいます。

また、火力事業他の一過性影響（△350億円）は、第2四半期の決算説明の際にも説明しました、前年同期に決算した好採算工事の反動、および当年度に計上したヨーロッパの拠点についての事業構造改善費用の影響に加えて、第3四半期において追加で計上した事業構造改善費用や海外工事案件での一時費用などを示しています。

その他、このページに記載した要因で増減し、当期の事業利益は1,052億円となりました。

## 2022年度第3四半期決算実績 セグメント別内訳



	受注高			売上収益			事業利益		
	FY21 3Q	FY22 3Q	増減	FY21 3Q	FY22 3Q	増減	FY21 3Q	FY22 3Q	増減
(単位：億円)									
エンジン	8,796	12,066	+3,270	10,737	11,994	+1,257	138	388	+250
プラント・インフラ	6,391	5,856	△535	4,612	4,572	△39	127	144	+17
物流・冷熱・ ドライブシステム	7,208	8,845	+1,636	7,085	8,697	+1,612	227	222	△5
航空・防衛・宇宙	2,798	3,145	+347	4,239	4,320	+80	204	315	+111
全社又は消去	△271	△252	+18	△220	△204	+15	110	△17	△128
合計	24,923	29,661	+4,738	26,453	29,380	+2,926	808	1,052	+244

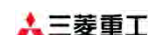
© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

10

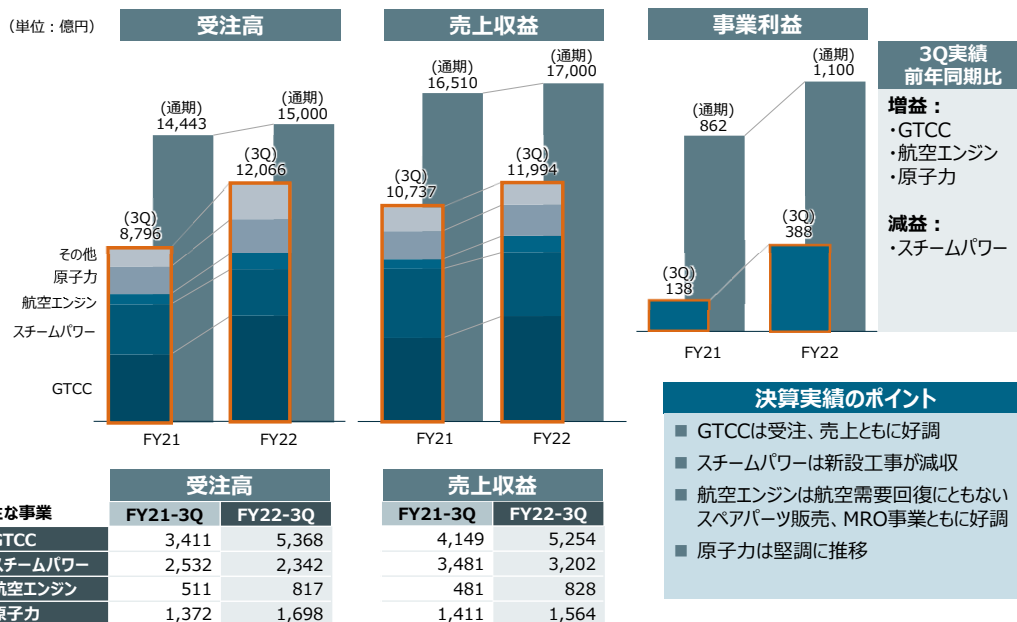
このページでは、セグメント別の受注高、売上収益、事業利益をまとめて記載しています。

次のページ以降で、セグメント別に説明いたします。

## セグメント別 決算実績 <エネルギー>



(単位：億円)



© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

11

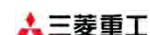
このページでは、エネルギーセグメントの状況を記載しています。

受注高、売上収益、事業利益とも前年同期を上回りました。グラフの下の数値からも読み取れるとおり、GTCC、航空エンジン、原子力といった事業が堅調な進捗を見せています。

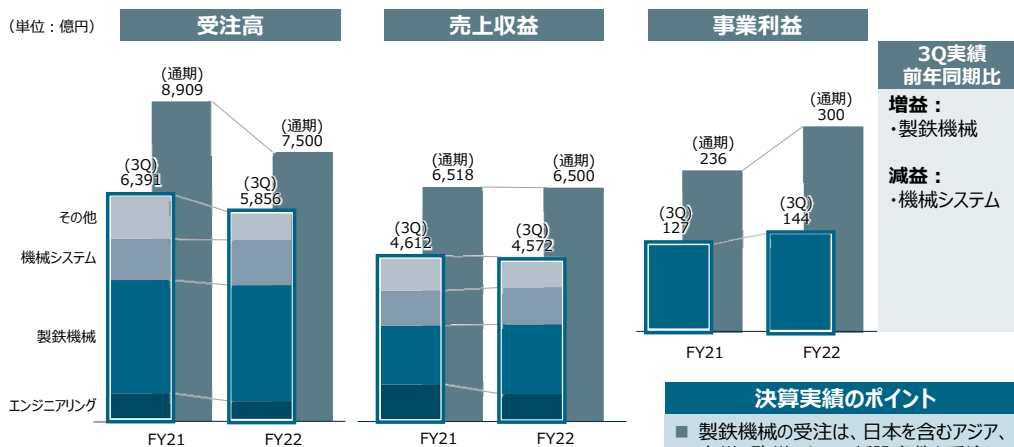
なお今般、年度の事業利益見通しにつき100億円引き下げ、1,100億円としました。海外工事のクレーム対応やIGCC（※）の稼働が不安定な状況を踏まえ、追加引当を実施したことなどが要因です。

※IGCC：石炭ガス化複合発電

## セグメント別 決算実績 <プラント・インフラ>



(単位：億円)



主な事業	受注高		売上収益	
	FY21-3Q	FY22-3Q	FY21-3Q	FY22-3Q
エンジニアリング	826	607	1,017	754
製鉄機械	3,155	3,230	1,641	1,939
機械システム	1,146	1,256	970	1,030

### 決算実績のポイント

- 製鉄機械の受注は、日本を含むアジア、米州、欧州において新設案件を受注し、好調であった前年同期と同水準で推移
- セグメント全体の受注は、通期見通し達成に向けて順調に進捗

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

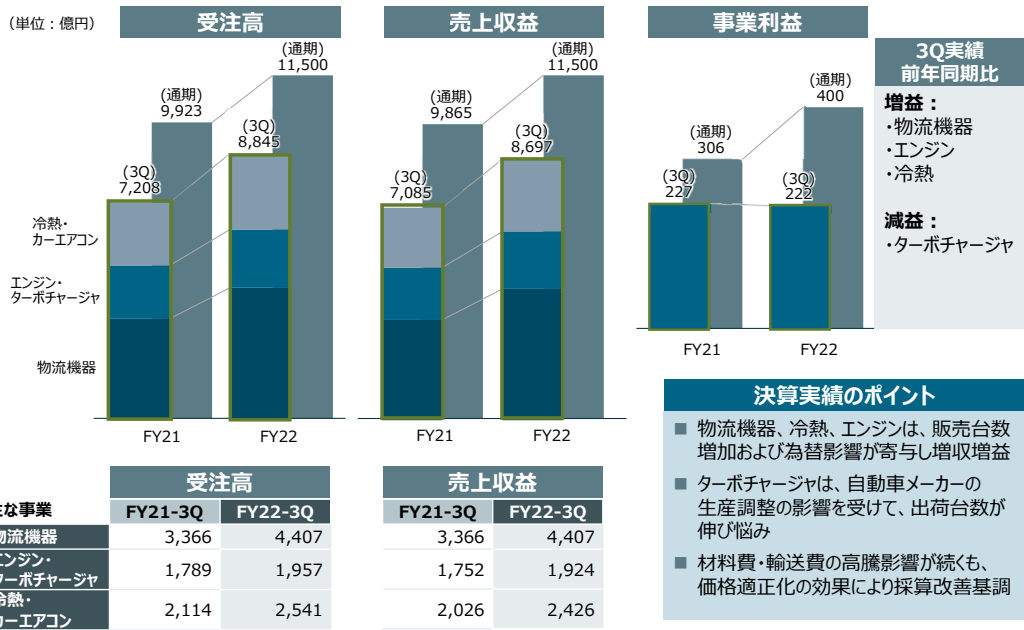
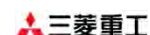
12

このページでは、プラント・インフラセグメントの状況を記載しています。

受注高はエンジニアリング、商船などが前年同期対比で減少しています。好調が続いていた製鉄機械は、第3四半期は伸び悩んだものの、9カ月での累計値では依然として前年同期を上回っています。

売上収益は、前年同期比でエンジニアリングの減収効果が大きく、40億円の減収となりました。事業利益は、製鉄機械の増収効果もあり、増益となっています。

## セグメント別 決算実績 <物流・冷熱・ドライブシステム>



© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

13

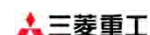
このページでは、物流・冷熱・ドライブシステムの状況を記載しています。

セグメント全体としては、受注高・売上収益は堅調に推移しているものの、事業利益はわずかですが減益となりました。受注・売上は前年同期対比で大きく増加しています。

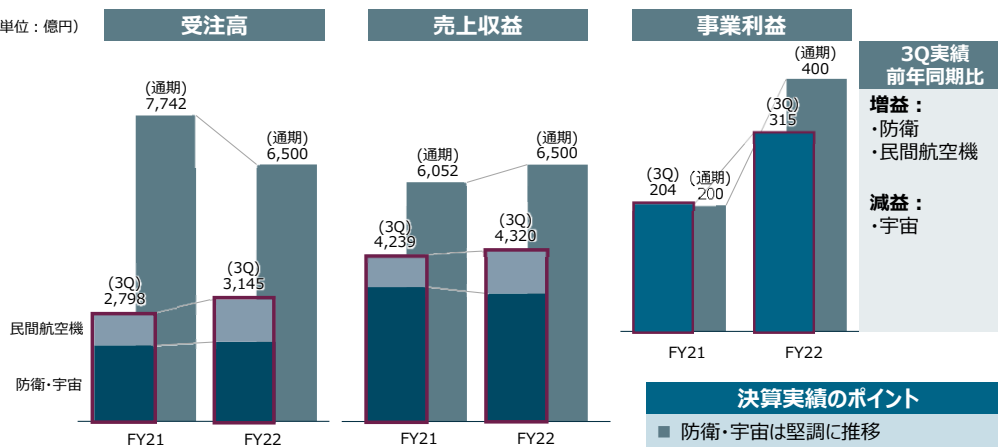
物流機器・冷熱・エンジンでは、為替の換算レートや、価格アップの影響を除外しても数量ベースで増加傾向にあります。利益の面では、第2四半期までは材料費、物流費の高騰に対して値上げ効果が追い付いていない状態でしたが、ようやく改善効果の刈取りが進み始めたとみています。

資料には記載ありませんが、3カ月ごとの利益を前年同期対比で見ますと、第1四半期が80億円の減益であったのに対して、第2四半期の3カ月間は18億円、そして第3四半期の3カ月間はプラス57億円の増益と、改善基調が定着しつつあります。

## セグメント別 決算実績 <航空・防衛・宇宙>



(単位：億円)



**3Q実績  
前年同期比**

**増益：**  
・防衛  
・民間航空機

**減益：**  
・宇宙

主な事業	受注高		売上収益	
	FY21-3Q	FY22-3Q	FY21-3Q	FY22-3Q
防衛・宇宙	1,960	2,049	3,403	3,243
民間機	838	1,097	835	1,076

**決算実績のポイント**

- 防衛・宇宙は堅調に推移
- 民間機は、Tier1事業のうち貨物機・ビジネス機の出荷機数増加、為替影響および固定費抑制により増収増益

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

14

このページでは、航空・防衛・宇宙セグメントの状況を記載しています。

民間航空機Tier1事業は、貨物機やビジネス機向けの出荷が増加したことに加え、為替円安効果もあり、増収増益となりました。

防衛関係は、堅調に推移しています。

第3四半期までの進捗を踏まえ、年度通期の事業利益見通しを100億円引き上げ400億円に変更しています。

## Ⅲ. 2022年度業績見通し

本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、また、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。従いまして、この業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。実際の業績は、様々な重要な要素により、この業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素には、当社グループの事業領域をとりまく経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レート、日本の株式相場などが含まれます。

## 2022年度業績見通し サマリー



前回公表値（2022年11月1日）から前提為替レート（ドル）を見直し

(単位：億円)	2021年度 (利益率)	2022年度 (利益率)	増減 (利益率)	(増減率)
受注高	40,677	40,000	△677	(△1.7%)
売上収益	38,602	41,000	+2,398	(+6.2%)
事業利益	1,602 (4.2%)	2,000 (4.9%)	+398 (+0.7%)	(+24.8%)
親会社の所有者に 帰属する当期利益	1,135 (2.9%)	1,200 (2.9%)	+65 (+0.0%)	(+5.7%)
ROE	7.7%	7.7%	-	
EBITDA	2,924 (7.6%)	3,300 (8.0%)	+376 (+0.4%)	(+12.9%)
フリー・キャッシュ・フロー	3,018	△1,000	△4,018	
配当	100円 中間45円/期末55円	120円 中間60円/期末60円	前提為替レート： 1ドル=130円（前回 140円） 1ユーロ=140円 未確定外貨：11億ドル、2億ユーロ	

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

16

このページ以降では、22年度の業績見通しを記載しています。

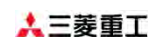
すでに説明しました通り、全社の見通し数値は受注高、売上収益、事業利益とも変更ありませんが、セグメントごとの事業利益見通しについて一部見直しています。

また、未確定外貨の前提為替レートについても、現下のマーケットを踏まえ、米ドルについて従前の140円から130円へと変更しています。具体的な数字は、資料からお読み取りください。

以上で、決算に関する説明を終了いたします。



## 2022年度業績見通し セグメント別内訳



前回公表値（2022年11月1日）から一部見直し

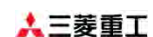
(単位：億円)	受注高			売上収益			事業利益			
	FY21 実績	FY22 見通し	FY21比 増減	FY21 実績	FY22 見通し	FY21比 増減	FY21 実績	FY22見通し		FY21比 増減
								今回	前回	
エナジー	14,443	15,000	+557	16,510	17,000	+490	862	1,100	1,200	+238
プラント・ インフラ	8,909	7,500	△1,409	6,518	6,500	△18	236	300	300	+64
物流・冷熱・ ドライブシステム	9,923	11,500	+1,577	9,865	11,500	+1,635	306	400	400	+94
航空・防衛・ 宇宙	7,742	6,500	△1,242	6,052	6,500	+448	200	400	300	+200
全社又は消去	△341	△500	△159	△345	△500	△154	△3	△200	△200	△198
合計	40,677	40,000	△677	38,602	41,000	+2,398	1,602	2,000	2,000	+398

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

17

## IV. 補足資料

## 参考データ



大型ガスタービン 受注台数・契約残台数				民間航空機 出荷機数					
	FY21-3Q	FY21通期	FY22-3Q	777	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
米州	-	5	4	FY21	5	4	6	5	20
アジア	3	5	4	FY22	6	7	7		20
EMEA	-	-	1						
その他	6	6	2	777X	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
合計	9	16	11	FY21	2	1	1	0	4
契約残台数	41	46	43	FY22	1	0	0		1
				787	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
	FY21-3Q	FY21通期	FY22-3Q	FY21	14	5	4	2	25
受注台数	4	7	21	FY22	5	7	8		20

## 参考データ



### 研究開発費、減価償却費、設備投資

(単位：億円)	FY21-3Q	FY22-3Q	2022年度見通し
研究開発費	755	829	1,300
減価償却費	984	1,033	1,300
設備投資	844	933	1,300

### 販売費及び一般管理費 (単位：億円)

	FY21-3Q	FY22-3Q
販管費	4,048	4,485

### 為替レート (売上計上平均レート)

	FY21-3Q	FY22-3Q
USドル (円 / USドル)	110.5	135.3
ユーロ (円 / ユーロ)	130.0	137.6

## 参考データ



受注残高 (単位：億円)	FY21-4Q	FY22-3Q
エネルギー	31,144	32,638
プラント・インフラ	12,434	14,831
物流・冷熱・ドライブシステム	432	577
航空・防衛・宇宙	10,871	9,697
合計	54,885	57,749

地域別売上高 (単位：億円)	FY21-3Q		FY21通期		FY22-3Q	
日本	12,499	(47%)	18,877	(49%)	12,142	(41%)
アジア・パシフィック	5,181	(20%)	7,116	(18%)	5,670	(19%)
米州	5,029	(19%)	7,399	(19%)	7,532	(26%)
EMEA	3,743	(14%)	5,208	(14%)	4,034	(14%)
合計	26,453	(100%)	38,602	(100%)	29,380	(100%)

# SpaceJet について

# SpaceJet について



## SpaceJet の開発中止を決定

- 立ち止まりとしていた SpaceJet M90 の開発活動を中止
- 今後とも SpaceJet の知見を活かし、完成機を見据えた我が国航空機産業の発展と技術力向上に取り組んでいく

反省点

- ✓ 高度化した民間航空機の型式認証プロセスへの理解不足
- ✓ 長期にわたる開発を継続して実施するリソースの不足

以下の観点から開発再開に足る事業性を見出せず

- 中止する理由
- ① **技術** 開発長期化により一部見直し要。脱炭素対応等も必要
  - ② **製品** 海外パートナーより必要な協力の確保が困難と判断
  - ③ **顧客** 北米でロープ・アップ（労使協定による機体サイズ等の制限）の緩和が進まず、M90では市場に適合しない  
足下でのパートナー不足の影響もありRJ市場規模が不透明
  - ④ **資金** 型式証明の取得にさらに巨額の資金を要し、上記市場環境では事業性が見通せない

今後の取組み

1. CRJ事業での完成機事業への取組み
2. 海外OEMとのパートナーシップ深化
3. 完成機を見据えた次世代技術の検討
4. FX（次期戦闘機）への知見活用
5. 愛知県にある施設・設備活用

### SpaceJet 開発により達成できたこと

- TC取得しうる機体を設計・製作・認証する体制の整備  
3,900時間超の試験飛行を安全トラブルなく遂行
- 民間旅客機への日本での型式証明プロセス実践  
欧米当局との二か国間相互認証協定の締結
- 航空機開発プロセスのデジタル化に向けた技術情報獲得  
Model Based Systems Engineering (MBSE)  
Certification by Analysis (CbA：解析による適合性証明)

### 技術的な成果

- 航空機開発への本格的なV&V適用
- 大口径GTFエンジンのRJ主翼搭載
- CFDを用いた空力最適化
- VaRTMでの新材料等の適合性証明
- 世界レベルの飛行試験実施経験
- 実機レベルの試験設備（名古屋地区）

TC:型式証明、V&V: Validation & Verification、GTF: 高推力ターボファン、RJ: リーンエッジジェット、CFD: コンピュータによる流体解析、VaRTM: 真空含浸法

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

23

なお、本日の取締役役会において、スペースジェットの開発中止を正式に決定いたしました。内容については、お読み取りいただければと思います。

以上をもちまして、私からの説明を終了いたします。

ありがとうございました。

MOVE THE WORLD FORWARD MITSUBISHI  
HEAVY  
INDUSTRIES  
GROUP

